

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成26年11月28日現在

今月の重点活動

■いちご 羽島いちご振興会

11月5日、羽島市いちご振興会は、JAぎふ小熊支店において、本年度取得した「ぎふクリーン農業」登録に係る集合研修会を実施した。農業普及課は、病害（ダニ、うどんこ病）発生の一要因となっている葉の混み過ぎを葉かき作業で回避するなどを指導した。今後も、現地巡回等を通じて、健苗育成に向けた技術支援を継続するとともに、本ぽでの適正管理をテーマに研修会を開催することとしている。



【栽培講習会】

活力ある新産地づくり

■ブロッコリー 各務原ブロッコリー出荷

11月25日、JAぎふブロッコリー協議会各務原地区の出荷目揃会が行われた。本年度は2名が新規に取り組んでいる。出荷計画どおりに出荷が始まり、関係機関、生産者とも和やかな雰囲気の中での研修会となった。JA全農岐阜、JAぎふからの出荷基準の説明の後、農業普及課からは生育進度がやや早く収穫遅れがないよう啓発をした。



【出荷基準の説明】

売れる農畜産物づくり

■麦 播種

11月に入って麦類の播種作業が本格的に始まり、管内では小麦・大麦合わせて約340ha栽培される。近年、難防除雑草のイタリアンライグラスの発生が多くなっていることから、農業普及課は、播種前後のプリグロックス処理を指導している。また、当該雑草に除草効果があるとされる新規除草剤が月内に登録されたことから、播種が終わっていない組織にあり、その効果を確認する展示ほをJA全農岐阜やメーカーと協力して設置し、11月28日に1.5ha分を散布した。



【小麦除草剤散布】

■いちご 現地研修会

11月11日、本巣市管内の就農5年以下の認定就農者を対象とした現地研修会を開催した。研修会には6名が参加し、全員のほ場を巡回した。農業普及課からは、厳寒期に向けた栽培管理のポイントとして、温度管理、電照時間、培地の加温、二酸化炭素施用などの指導を行った。



【現地研修会】

■祝だいこん **は種約1か月後調査**

11月10日から14日にかけて、農業普及課とJAぎふでは、祝だいこんの第1回生育調査を実施した。農業普及課では、今年は生産者やほ場によって生育・肥大のバラツキや葉色が淡いことから、早期追肥やトンネル被覆など栽培管理の徹底についての栽培技術情報を作成し、指導した。今後、第2回目の生育調査を実施し、生育状況を把握するとともに、栽培管理指導、さらには出荷予測などの情報提供をすることとしている。



【生育調査】

■加工キャベツ **先頭を切ったのはJA女性部**

岐阜農林事務所管内では加工キャベツの栽培が徐々に増えている。11月20日に各務原のJA女性部を皮切りに出荷が始まった。農業普及課では、出荷規格や効率的な集荷作業方法について助言指導した。定植までは営農組合に作業委託し、その後自分たちで管理する新しい取り組みではあるが、取組拡大の起爆剤の一つとして期待される。



【軽トラを畑に畑に入れ積み込み】

多様な担い手の育成・確保

■柿担い手 **本巣市柿担い手育成事業研修生決定**

11月5日に柿研修生募集に応募した7組8名の面接選考会が行われ、研修生3名（岐阜市20代、名古屋市30代、犬山市40代、各1名）を決定した。このうち1名は27年1月から、2名は4月からそれぞれ1年間の研修を行い、柿農家としての自立経営を目指す。

農業普及課では、JA、市等と連携して就農に向けた支援を行う。



【面接選考会】

魅力ある農村づくり

■小規模高齢化集落 **第2回集落営農塾**

11月5日、大垣市の西濃総合庁舎において、西濃、揖斐農林事務所と協力して第2回目集落営農塾を開催した。今回はワークショップによる集落ビジョンの作成手法の体験を目的とした。

また、この日の午前中に、集落営農塾の講師楠本雅弘氏を現地に迎え、現場視察の後、青波地区に適用できる集落営農について助言をいただいた。



【ワークショップ】

県民みんなで育む農業・農村

■いちご **小学生に佐波いちごを伝授**

11月12日農業普及課では、岐阜市柳津小学校の3年生120名を対象に、いちごの出張授業を行った。佐波いちごの歴史やいちごの基本的な生理・生態を子供達でも理解できる内容でやさしく説明した。授業終了後には、子供達から多くの疑問、質問が出され、地元のいちごに非常に興味を持っていることが伺えた。今後は、病害虫防除における天敵利用の授業の計画もあり、引き続き支援を行うこととしている。



【授業での指導】